

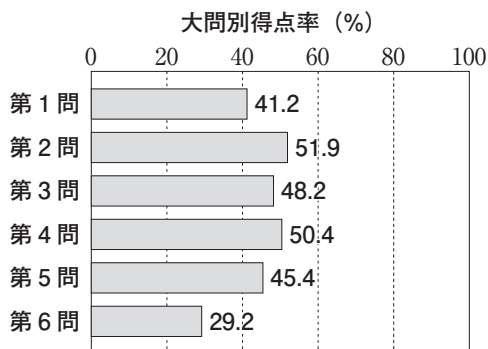
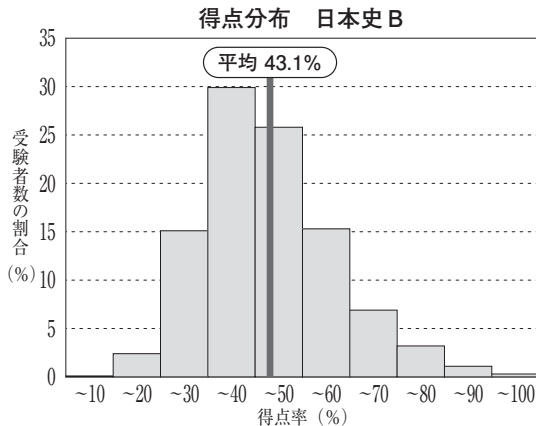
日本史B

習熟度を深めることで、確実に得点する力を伸ばそう！

I. 全体講評

新年度がスタートし、新生活にも慣れたであろうか。そのようななか、第2回4月センター試験本番レベル模試が実施された。

第2回4月センター試験本番レベル模試の平均点は43.1点と、前回の結果(42.9点)をわずかながらではあるが上回った。この平均点をみると当然ではあるが、5割の正答率に達した問題の方が少なかった。これは、受験者が思うように学習時間を確保できなかったことに起因していることは明白だろう。大問別にみると、第2問・第4問がそれぞれ51.9%、50.4%となんとか5割は確保できた。一方で、近代史を中心とした第6問は29.2%と失点した問題が多かった。普段の生活のなかで、しっかり



とした学習環境を整備した上で、反復学習により習熟度を深め、確実に得点する力を伸ばしていこう。

II. 大問別分析

第1問 漁業に関するレポート

特殊テーマは知的好奇心をもちながら問題文に目を通そう！

「漁業」の歴史を取り上げ、縄文時代から戦後史まで広い範囲をとりあげた。テーマはやや特殊な内容であったが、設問内容はすべて基礎・標準レベルである。知的好奇心をもちながら問題文に目を通そう。

第1問の得点率は41.2%と辛うじて4割台を確保した結果となった。古代史を内容とした問1は77.4%と好調であったが、時代が下るにつれて次第に得点が伸びなくなっていった。とくに近代の東アジア情勢に関して問うた問4は10.5%と1割台にとどまった。近代史は時期的に未習箇所であると考えられるが、今のうちから教科書を精読する作業は毎日やっていこう。

第2問 古代の政治・仏教・文化

仏教との関係という視点から古代政治史を深く理解していこう！

仏教や文化にふれながら、古代の政治を中心に問題した。とくに古代政治史は、鎮護国家の思想にみられるように仏教と密接な関わりをもっていることが多い。仏教との関係という視点から歴史を考察してみよう。

第2問の得点率は51.9%と5割台は確保できたが、やや取りこぼしが目立った印象だ。問1、問6は6割の正答率であった一方、問3の美術・建築に関する視覚教材を使用した問題が39.0%と大きく崩れた。誤答②を選択した受験者が32.4%にのぼったことから、各文化の時期や特徴に関する理解が不足していた。教科書や図録で文化史の時期やその時期に属する美術や建築を点検してみよう。

第3問 中世の政治・社会・文化

中世の戦乱はその因果関係を理解することで、混同しないように気をつけよう！

中世の政治・社会・文化に関連した問題を出題した。中世は戦乱が多い時代だが、その因果関係などの理解を深めることで、明確に区別するよう心がけよう。

第3問の得点率は48.2%と5割未満の結果に終わった。問5にみえるセンター本試・日本史Bで頻出の史料読解を試した問題は71.8%としっかり対応できていた。一方、室町時代の戦乱に関する問4の時代整序問題は19.1%と多くの受験者が苦戦した。選択肢文に惑わされないよう、正確でブレない知識を習得することに集中していこう。

第4問 近世の江戸

社会で起こっていることに常に関心をもつことで、時事的な問題に対処していこう！

近世の江戸を取り上げ、政治史を中心に出题した。2020年の東京オリンピックをひかえ、江戸・東京に関する関心も深まっている。社会に常に関心をもつことで時事的な問題に対処するようにしよう。

第4問の得点率は50.4%と第2問と同じ水準であった。問2、問3、問6がすべて4割台であったことが今一つ伸び悩んだ要因であった。46.5%の正答率に終わった問3は「俸禄制度」と「地方知行制」について理解を深めておく必要があった。各政権の制度やその政権の存在する原理は何か、といった視点から歴史を考察することが大切だ。

第5問 明治時代の文学

情報量の多い文学史を得点源とすることで、実力の底上げを図ろう！

明治時代の文学史を取り上げた。多くの受験生が苦手とするテーマであるが、このテーマを得点源とすることで実力の底上げを図っていこう。

第5問の得点率は45.4%と5割には届かなかった。問3は63.2%と及第点であったが、得点が伸びやすい空欄補充問題の形式の問1が34.6%と得点を稼ぐことができなかった。「矢野龍溪」と「仮名垣魯文」は受験日本史では基礎的な知識であるが、その事績への理解が不足していた。文化史はテーマも多岐に及び情報量が多いだけに、はやめの

対策を心がけよう。

第6問 長谷川如是閑

「人物」が残した事績から、時代全体を俯瞰的に理解することをこころがけよう！

思想家・長谷川如是閑の事績を取り上げ、明治後期から昭和・戦後まで広範囲に出題した。長谷川如是閑の残した事績から、近代史を俯瞰的に理解することを心がけよう。

第6問の得点率は29.2%と大問6題中、最低の数字に終わった。5割を確保した問題は皆無で、最高でも問4の46.3%とどまった。このことは、個々の歴史的事象に対する、起こった時期、関わった人物、もたらした結果や意義など、理解すべきことへの知識が絶対的に不足していることをあらわしている。「いつまでにここまでやる」というように計画的に近代史の学習にあたっていこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆学習環境を整備する

新年度がスタートして慌ただしい日々を送ったことだろう。しかし、そろそろ腰を据えてじっくり学習する環境を整備してほしい。机に向かう時間や日本史にかける時間を詳細に設定し、それを忠実に実行していくこと。センター本試・日本史Bでは網羅性が重視される。「時間との闘い」といった側面もあるだけに、自分にとって学習が一番はかどる環境とはどのような状況なのかをしっかりと把握した上で、その環境を整備することに力を注いでいこう。

◆「広い」視野をもつこと

用語の暗記に執着している受験生は往々にして得点が思うように伸びていかない。時代と時代を比べる「広い」視野をもち、その時代を象徴する「構造」や「カタチ」が、時代が経過するにつれてどのように変化していったのか、といった見方で歴史をとらえていこう。日本史を学習することがもっと楽しく感じるはずだ。

一 少しを知るために、

多くを学んでおかねばならぬ。一

モンテスキュー